

自己改革 取り組み中!

農業者の
所得増大

地域の
活性化

組織・経営力
の発揮



つがる弘前農業協同組合

JA 自己改革

「JA 自己改革」とは、政府の「農協改革」に対し、JA が自主的な協同組合として、組合員の声に基づき、自らが事業や運営を点検し、改革することです。



JA つがる弘前では、組合員の皆様や地域社会に貢献する JA となるべく、以下の基本目標に取り組んでいます。

農業者の所得増大

- (1) 生産コストの削減
- (2) 農産物販売力の強化
- (3) 利益の還元

地域の活性化

- (1) 暮らしの活動の拡大

組織・経営力の発揮

- (1) 組織の強化
- (2) 経営の強化
- (3) 財務の強化

農業者の所得増大

良質かつ低コスト資材の取り扱い



2019年用肥料・りんご袋の予約申込時に特別価格品目を設定。

通常価格に比べ、肥料1袋あたり **70円～260円**
りんご袋1把あたり **38円～50円**
安く提供。

今後も良質で低コスト資材の提供に取り組みます。

りんご輸出の拡大



H30年12月末までに135,612ケースを輸出。

(昨年同期比 115.9%)

今後も新選果機を効率的に活用し「JAつがる弘前りんご」の知名度向上と出荷者の所得向上を図ります。

本年度は、「トキ」「王林」のピンコ（小さいりんご）も集荷し輸出量拡大に努めます！

園芸作物の販売金額増大



「園芸推進品目新規出荷者獲得運動」を実施。新規出荷者が52人増加しました。(H30.12月末時点)

作物名	新規出荷者	総出荷者人数	数量（昨年同期比）	金額（昨年同期比）
ミニトマト	9人	60人	116.0%	133.2%
ピーマン	23人	99人	90.2%	136.1%
にんにく	16人	38人	464.2%	422.3%
桃	4人	83人	76.5%	102.5%

プライムアップル!(ふじ)りんごで初の“機能的表示食品”



りんごで初めて「内臓脂肪を減らす」と表示し、販売することが可能に。

今後もこの商品をPRし、りんごの消費拡大、出荷者の所得向上に努めます。

地域の活性化

食農教育の強化



管内7小学校と1児童センターの児童を対象に食農教育活動を実施。田植えやりんご・やさいの収穫、調理実習などを行いました。(全学年取り組みが昨年より1校増え、3校となりました。)
今後も将来を担う子供たちに「食」と「農」の大切さを伝える活動に取り組みます。

地産地消の拡大



各直売所でイベントを開催！

「四季彩館」では七夕セールを開催。店舗の前の笹飾りには、弘前市立岩木小学校2年生79人が「ピアノが上手になりますように」「おばあちゃんの病気が治りますように」などと願い事をしたためた短冊が飾られました。

「かあさんの店」で開催された大感謝祭では、1個10円でピーマンときゅうりを販売。開店前から買い求めるお客様が長蛇の列を作っていました。今後も地域の皆様にとって魅力的なイベントを開催し、地産地消の拡大に努めます。

組織・経営力の発揮

労力不足による離農の抑制

① 農作業の労力確保に向けて



働き手を探している組合員とりんご園等で作業をしてくれる方の募集・面談を行いました。また、ホームページや県・市町村広報誌等で広く周知しました。

H30年12月末時点

働き手を募集した組合員28人	昨年同期比	9人増加
農作業希望者31人	昨年同期比	18人増加
雇用契約件数20件	昨年同期比	18件増加

② ピーマン共選化へ



出荷者の労力軽減を図るため、ピーマンの共選化を開始。

出荷数量	206.5 t	昨年同期比	90.2%
出荷者	99人	昨年同期比	12人増加

③ 作業受託による労力の軽減



にんにくの乾燥・選果作業の受託に加え、**新たに植え付け作業の受託を実施。**

平成30年12月末時点

にんにく乾燥・選果作業32件	昨年同期比	21件増加
植え付け作業3件		受託面積74a

支店体制の強化・充実化



支店体制の強化、充実に向けた業務機構の見直しを行いました。**主要な支店の業務係を金融係と経済係に分割し、購買・販売部門を強化。**

組合員、地域の皆様が利用しやすいJAを目指します。

《当JAにおける自己改革への取り組み状況について》

1. 農業者の所得増大

(平成30年12月末現在)

重点項目	取り組み項目	目標値 (平成29年度～平成31年度)	平成30年度上期の取り組み	
			目標	内容・結果
生産コスト削減	良質かつ低コスト 資材の取り扱い	特別価格品目供給金額 ①肥料 3億円 ②りんご袋 1億円	継続	特別価格品目 肥料 1袋あたり70円～260円 りんご袋 1把あたり38円～50円 安く提供
農産物販売力の強化	りんご海外輸出向け 出荷の拡大	海外向け出荷量 年間 3,117 t	—	海外向け出荷量135,612ケース (昨年同期比 115.9%)
	園芸作物販売金額の 増大	園芸作物販売額 年間 10億円	—	実績 約9億3,000万円 (昨年同期比 115.8%)
	「JAつがる弘前米」 の戦略的な販売	集荷数量(飼料用米を除く) 年間 10万俵	実施	H30年産申込数量 約10万3000俵
利益の還元	剰余金に応じた 積極的な利益の還元	配当の継続実施 年間目標金額 7千万円以上	継続	出資配当 2,300万円 事業分量配当 7,500万円 (H30.7月配当済)

2. 地域の活性化

くらしの 活動の拡大	地域貢献活動の強化	地域貢献活動 年間 4回	実施	未実施(下期に活動内容を検討)
	食農教育の強化	食農教育活動 提携学校全学年で実施	継続	管内7校中 全学年実施 3校
	健康管理活動の推進	受診者数の年間増加数 人間ドック 100人 血液検査 25人	継続	受診者増加数 人間ドック 0人(受診者数604人) 血液検査 0人(受診者数134人)
	地産地消の拡大	直売所イベント活動 年間 6回	継続	全店舗イベント活動5回～6回 (新鮮組にて新規イベント1回)

3. 組織・経営力の発揮

組織の強化	①組合員加入の促進 ②高齢・労力不足による離農の抑制	組合員新規加入目標 年間 100人	実施	①組合員新規加入者 122人 ②「農作業従事者無料職業紹介所」の充実
	地区・支店運営体制の見直し	委員会開催 年間 4回	実施	未実施(下期に第一回委員会を開催)
経営の強化	業務機構の見直し	業務機構の充実化 平成30年4月実施	実施	主要となる6支店において業務係を金融係と経済係に分割
	役員選出要件の見直し	新たな役員選出要件 平成31年6月実施	検討	「役員資格要件等諮問委員会」を設置し、役員選任細則の変更を理事会で承認
財務の強化	施設整備積立金の新設	施設整備積立金新設 平成29年6月実施	継続	H30.7月施設整備積立金2億円積立 累計3億円(総代会承認)
	自己資本の充実化	固定比率 110%以上を維持	継続	平成30年3月末 116.9%



JAつがる弘前地域貢献活動ご紹介

JAつがる弘前では、組合員および地域にお住まいの皆さまと共に歩み続けるJAとなるべく、たくさんの活動をしています。その内容の一部をご紹介します。



▲直売所にて職場体験受け入れ



▲地域の小学校へ
「お米を食べよう」消しゴム贈呈



◀総代主催夏祭り



▲年金友の会
「グランドゴルフ大会」



^{ひら}「拓き」^{あした}「はぐくみ」地域の未来へ…

つがる弘前農業協同組合

〒036-8522 青森県弘前市大字城東北4丁目1の1
TEL (0172) 28-1111 FAX (0172) 28-3699